

鶏肉情勢

項目	内容
供給	1. 国内 (1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会令和5年4月末実施)によると、4月の推計実績は処理羽数61,433千羽(前年比98.6%)、処理重量188.9千ト(同100.5%)となった。前月時点の計画値より処理羽数は0.4%の下方修正、処理重量は、0.3%上方修正された。高病原性鳥インフルエンザの発生も4月は2例に抑えられた。また、寒さが和らいだことで鶏舎の環境が安定し、大腸菌症が減少。生産は比較的順調になっている模様。 (2) 5月の計画は処理羽数、処理重量とも前年を上回る見通しとなっている。地区別で見ると処理羽数は、全地区、前年を上回る見通しであり、処理重量は中部地区を除く、北海道・東北地区、関東地区、近畿・中国・四国地区、北部九州地区、南九州地区は前年を上回る見通しである。高病原性鳥インフルエンザにおいては、5月の発生はなく、このまま終息に向かうことを期待したい。工場の人員不足は技能実習生が来日するようになったことで、少しずつ解消されており、加工品(切り身・手羽中ニツ割・砂肝スライス等)や副産品(小肉・ハラミ等)の生産は徐々に回復していくと思われる。
	2. 輸入 (1) 財務省5月30日公表の貿易統計によると令和5年4月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月から▲0.1千トの47.4千トで、国別ではブラジルが前月▲1.4千トの31.9千トでタイが+1.1千トの14.3千トとなり、ブラジルは前月から減少したがタイは前月より増加となった。前年同月の実績に対しては+3.8千トとなった。タイ産の輸入量が完全に回復し、ブラジル産・米国産共に安定した数量となっている。(独)農畜産業振興機構(ALIC)による今後の見通しでは、5月が49.8千ト(前年比117.2%)、6月が52.0千ト(前年比99.7%)となっている。5月は前月に比べ増加が予想される。ブラジル産については、野鳥での高病原性鳥インフルエンザの発生が確認されたことを受け、5月22日にブラジル政府が全土に180日間の動物衛生緊急事態を宣言した。仮に家禽で発生した場合、国内市場への影響が懸念される。現地価格は下げ傾向であり、先物オフアについて下げ傾向との声が聞こえており、需要としては現時点では落ち着いていくことが予想される。タイ産は引き続き安定した入荷が予想され、引き続き現地価格は上昇傾向となっており、国産ムネ肉への影響が考えられる。 (2) 鶏肉調整品の輸入量は前月から▲0.7千トの39.9千トで、国別では中国が▲0.2千ト、タイが▲0.6千トとなった。前年同月の実績に対しては-4.2千トとなり、前月比・前年比ともに下回る結果となった。タイの生産は回復しているが4月実績は微減となった。令和4年4月～令和5年3月累計では前年比100.8%となっている。価格については依然として高騰しており、上昇傾向が予想される。外食についてはコロナ前に回復しつつあり、中食・総菜向け等の引き合いも継続して強い状況である。 (3) 財務省が5月30日に公表した貿易統計によると4月の輸入鶏肉(解体品)の価格は前年同月より0.2%下降し、鶏肉調整品は前年同月より7.6%上昇した。国別ではブラジル産の価格が271円/kg(前月比3円安)、タイ産が340円/kg(同7円高)となっている(国別平均価格)。前年比ではブラジルは上昇しタイは下降した状況である。ブラジル産は4月実績では下げ基調となっており、国内市場価格も下降傾向となっている。ただし、ブラジルでの高病原性鳥インフルエンザの発生状況次第では市況に変化が起こる可能性がある。タイ産については現地価格が上げ基調になっているとの話が聞こえており、今後の国産鶏肉への影響を注視したい。
	3. 家計消費 (1) 総務省統計局発表の家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)によると、令和5年4月の生鮮肉消費(購入)は数量4,285g(前年比100.2%)、金額6,649円(同109.1%)と、数量・金額とも前年を上回った。鶏肉は数量1,572g(同104.0%)・金額1,566円(同114.5%)・単価99.6円/100g(前年同月+9.1円)と、数量・金額・単価とも前年を上回る結果となった。調理食品が金額11,570円(同103.2%)、外食が13,701円(同120.3%)となっている。あらゆる商品の値上げが相次ぐ中、節約志向が高まり、内食・中食需要が持ち直してきている。外食においても、行動制限もなく、加えて入国規制緩和による外国人旅行者によるインバウンド需要もあり、コロナ前に戻りつつあると考えられる。
需要	2. 量販・卸 (1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、令和5年4月の食品売上高は全店ベースで前年比104.8%と前年を上回った。生鮮3部門の売上高は全店ベースで同103.1%、既存店ベースは同102.2%となった。また、畜産部門の売上高は約1,155.1億円で全店ベース同106.8%、既存店ベース同105.5%となった。一般社団法人全国スーパーマーケット協会によると、前年に比べ、高めの気温、行楽需要の回復、日曜日が1日多いことによる恩恵が加わり販売は順調に推移したとのこと。食品価格の高止まり傾向が続くなか、節約志向による内食・中食需要が持ち直し、買上点数の減少が抑えられたようだ。畜産部門においては、精肉全般で相場高が続いており、買上点数の減少が続いていたが、豚肉・鶏肉ではやや回復傾向がみられた。牛肉では焼肉用の動きがよいが、和牛など高単価商品の動きが鈍い。低価格商品に需要がシフトしており、売上高は確保できて利益が取れない状況が続いているとのこと。
	3. 業務・加工筋 (1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによると令和5年4月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比104.8%の4.9千トとなった。うち国内品は同97.5%の3.8千トと前年を下回り、輸入品については同140.5%の1.1千トと前年を上回った。
在庫	1. 令和5年3月 (1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)の推計期末在庫では国産27.5千ト(前年比87.9%・前月差+0.5千ト)、輸入品119.5千ト(同102.8%・同▲7.4千ト)と合計で147.1千ト(同99.6%・同▲6.8千ト)となった。
	2. 見通し (1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)が発表した鶏肉需給表では、4月の出回り量は国産139.0千ト(前年比97.5%・前月差▲2.0千ト)、輸入品54.8千ト(同104.5%・同+6.0千ト)と合計で193.8千ト(同99.4%・同+4.0千ト)となった。5月以降の国産在庫については、販売に苦戦しているも肉を中心に増加していくと予測する。輸入鶏肉については(独)農畜産業振興機構(ALIC)の予測では、入荷量は、5月はブラジル産の輸入量が増加する予測となっていて、タイ産の輸入量も前年は新型コロナウイルス感染拡大による作業員不足の影響等で少なかったため、5月は大幅に増える予測されている。5月の輸入量は大幅に増え、期末在庫は前年同月を大きく上回ると予測される。
相場	1. 令和5年5月動向 (1) 令和5年5月の月平均相場は、モモ肉774円/kg(前月差▲15円)・ムネ肉408円/kg(同▲2円)正肉合計で1,182円/2kgと前月を17円下回り、前年同月を237円上回った。モモ肉相場は月初782円、月末は760円となり(昨年は月初623円、月末623円)、昨年の相場を大幅に上回った。寒さも和らいだことや、高病原性鳥インフルエンザの発生が抑えられたことで生産は順調に推移している。モモ肉においては、スーパーで特売を打つ店舗も増えてきたとの話も聞かれるが、相場高騰の煽りを受け、販売は苦戦し、凍結回しが増えてきている。ムネ肉は高病原性鳥インフルエンザによる採卵鶏の親鳥不足の影響もあり、生鮮品・冷凍品とも引き合いは引き続き強い。相場は緩やかな下落傾向にあるが、5月も引き続き高水準を維持した。
	2. 見通し (1) 6月の生産量は、若干、前年を上回る計画である。ただ、5月後半から気温が上昇し30℃を超える日が続いているため、生産への影響が懸念される。量販店では鶏肉の販売は回復傾向が見られるとあるが、気温上昇の影響で国産モモ肉の苦戦は続くと思われる。ブラジルモモ肉(解凍品)やタイ産モモ切り身(解凍品)を価格訴求品として販売している店舗も見受けられる。外国人観光客も増え、インバウンド需要等から外食は回復傾向にあり、焼き鳥・からあげ等による鶏肉の消費拡大に期待したい。加工原料は数量確保のため、輸入品に切り替える動きも聞かれるが、国産ムネ肉は相変わらず引き合いは強い。以上のことから、モモ肉相場は下げの月平均740円、ムネ肉相場はもちあいの月平均405円と予測する。 (2) 5月22日、鶏肉輸出大国であるブラジルで、野鳥で高病原性鳥インフルエンザの感染が確認され、全土に180日間の緊急事態を宣言した。鶏肉生産量の多い州の近隣での発生のため、今後、家きんへの拡がりも懸念される。量販店の鶏肉販売は回復傾向ではあるものの、気温上昇により、販売の中心がモモ肉からムネ肉・ササミなどの涼味用商材に変わっていくと思われる。モモ肉の販売が苦戦しているため、例年より早めに年末商材を製造しているとの話も聞かれる。しかし、今後も食品をはじめ様々な物価高騰による値上げが続くことから、節約志向が働き、他の畜種と比較すれば安価な鶏肉の販売は順調に推移すると思われる。モモ肉は下げ基調であるものの鶏肉相場は例年になく高水準で推移していくと思われる。

実績

生産状況 単位:千羽、千トン、%

	R4年累計		R5年4月推計実績		R5年5月計画		R5年6月計画		R5年7月計画	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
入雛羽数	774,648	100.1%	64,657	99.3%	64,034	101.8%	61,767	101.6%	62,661	99.3%
処理羽数	737,217	100.2%	61,433	98.6%	63,877	102.6%	61,729	101.4%	58,909	100.8%
処理重量	2,224.1	99.9%	188.9	100.5%	188.5	101.3%	184.9	100.6%	175.0	101.0%

※参考資料: (株)全国食鳥新聞社発行「PMN」

輸入動向 単位:千トン、%

品名	鶏肉			調製品			合計			比率	
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R3年累計	595.8	535.0	111.4	481.0	469.5	102.5	1,076.8	1,004.5	107.2	55.3	44.7
R4年11月	49.8	57.8	86.2	43.1	43.8	98.5	92.9	101.5	91.5	53.6	46.4
R4年12月	44.3	60.7	73.0	40.4	48.2	83.8	84.7	108.9	77.8	52.3	47.7
R4年累計	574.5	595.8	96.4	525.8	481.0	109.3	1,100.3	1,076.8	102.2	52.2	47.8
R5年1月	44.4	53.8	82.5	34.3	43.2	79.4	78.7	97.0	81.1	56.4	43.6
R5年2月	47.1	49.6	95.0	32.1	38.8	82.7	79.2	88.4	89.6	59.5	40.5
R5年3月	47.5	45.1	105.3	40.6	47.8	84.9	88.1	92.9	94.8	54.0	46.0
R5年4月	47.4	43.6	108.8	39.9	44.1	90.4	87.3	87.7	99.6	54.3	45.7

※参考資料:財務省「貿易統計」、(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

鶏肉の消費動向 単位:グラム、円、%

履歴	数量			金額		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R3年平均	1,526	1,565	97.5	1,410	1,440	97.9
R4年11月	1,495	1,536	97.3	1,505	1,429	105.3
R4年12月	1,729	1,695	102.0	1,854	1,702	108.9
R4年平均	1,510	1,526	99.0	1,448	1,410	102.7
R5年1月	1,491	1,563	95.4	1,559	1,450	107.5
R5年2月	1,402	1,483	94.5	1,475	1,404	105.1
R5年3月	1,497	1,550	96.6	1,511	1,439	105.0
R5年4月	1,572	1,512	104.0	1,566	1,368	114.5

※参考資料:総務省統計局HP 家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)

相場(年別・暦年) 単位:円

	モモ肉	ムネ肉	計
H27年	639	336	975
H28年	621	255	876
H29年	626	315	941
H30年	595	282	877
R元年	585	243	828
R2年	614	269	883
R3年	641	313	954
R4年	662	348	1,010

在庫状況(推定) 単位:千トン、%

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R4年11月	23.4	33.6	69.7	129.9	114.7	113.3	153.3	148.2	103.4
R4年12月	24.6	35.5	69.5	124.2	114.4	108.5	148.8	149.9	99.3
R5年1月	24.4	35.1	69.6	125.6	123.2	101.9	150.0	158.3	94.8
R5年2月	25.0	33.9	73.7	128.1	129.3	99.1	153.1	163.2	93.8
R5年3月	27.0	32.5	83.2	126.9	125.2	101.4	153.9	157.7	97.6
R5年4月	27.5	31.3	87.9	119.5	116.3	102.8	147.1	147.6	99.6

※参考資料:(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

相場(月別) 単位:円、%

品名	モモ肉			ムネ肉			正肉合計		
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R4年平均	662	641	103.3	348	313	111.2	1,010	954	105.9
R5年2月	800	646	123.8	414	323	128.2	1,214	969	125.3
R5年3月	799	631	126.6	411	316	130.1	1,210	947	127.8
R4年度平均	702	627	112.0	371	317	117.0	1,073	944	113.7
R5年4月	789	622	126.8	410	315	130.2	1,199	937	128.0
R5年5月	774	624	124.0	408	321	127.1	1,182	945	125.1
R5年6月	(740)	624	118.6	(405)	326	124.2	(1,145)	950	120.5
R5年7月	(710)	637	111.5	(405)	340	119.1	(1,115)	977	114.1

※()は見直し